

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

ENCOUNTER WITH

1709年製「エンリケルマン」の響き

コンサート2019

ストラディヴァリウス

1700年製「ドラゴネツティ」と

STRADIVARI

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

西日本新聞社

ACROS Fukuoka
もっと近くに 25th

Izumi Hall

SUNTORY HALL

ストラディヴァリウス・コンサート 2019

Encounter with Stradivari 2019

～ 1700 年製「ドラゴネッティ」と

1709 年製「エングルマン」の響き～

～ *The sounds of 1700 "Dragonetti" and
1709 "Engleman"～*

福岡公演

2019 年 10 月 29 日 (火)

福岡シンフォニーホール

主催 日本音楽財団 西日本新聞社

共催 (公財) アクロス福岡

助成 日本財団

協力 SOS 子どもの村 JAPAN 福岡市立こども病院

大阪公演

2019 年 10 月 30 日 (水)

いずみホール

主催 日本音楽財団

共催 いずみホール [一般財団法人 住友生命福祉文化財団]

助成 日本財団

協力 京都大学 iPS 細胞研究所

東京公演

2019 年 10 月 31 日 (木)

サントリーホール ブルーローズ

主催 日本音楽財団

共催 サントリーホール

助成 日本財団

協力 国立成育医療研究センターもみじの家

福岡、大阪、東京公演のチケット売上金の全ては、それぞれ、SOS 子どもの村 JAPAN、福岡市立こども病院 (福岡公演)、京都大学 iPS 細胞研究所 (大阪公演)、国立成育医療研究センターもみじの家 (東京公演) に寄付されます。

プログラム

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

Ludwig van Beethoven (1770 – 1827)

ヴァイオリン・ソナタ 第5番 へ長調 作品24「春」

Violin Sonata No.5 in F major “Spring”, Op.24

I . Allegro

II . Adagio molto espressivo

III . Scherzo: Allegro molto

IV . Rondo: Allegro ma non troppo

ベンジャミン・ペイルマン (ヴァイオリン) Benjamin Beilman (Violin)

萩原 麻未 (ピアノ) Mami Hagiwara (Piano)

(約 25 分)

ベーラ・バルトーク

Béla Bartók (1881-1945)

2つのヴァイオリンのための二重奏曲 Sz. 98 から

Duos for Two Violins, Sz.98 (selections)

No. 35 Ruthenian Kolomejka

No. 16 Burlesque

No. 22 Mosquito Dance

No. 26 Teasing Song

No. 42 Arabian Dance

No. 43 Pizzicato

No. 44 Transylvanian Dance

No. 36 Bagpipes

イム・ジヨン (ヴァイオリン) Ji Young Lim (Violin)

ベンジャミン・ペイルマン (ヴァイオリン) Benjamin Beilman (Violin)

(約 10 分)

～ 休 憩 ～

[スペシャル・プレゼント]

ピョートル・チャイコフスキー

Pyotr Tchaikovsky (1840-1893)

「なつかしい土地の思い出」作品 42 から「メロディ」
“Mélodie” from Souvenir d'un lieu cher, Op.42

イム・ジヨン (ヴァイオリン)

Ji Young Lim (Violin)

萩原 麻未 (ピアノ)

Mami Hagiwara (Piano)

(約 5 分)

ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms (1833-1897)

ヴァイオリン・ソナタ第 2 番 イ長調 作品 100
Violin Sonata No.2 in A major, Op.100

I . Allegro amabile

II . Andante tranquillo - Vivace

III . Allgretto grazioso

イム・ジヨン (ヴァイオリン)

Ji Young Lim (Violin)

萩原 麻未 (ピアノ)

Mami Hagiwara (Piano)

(約 20 分)

ドミートリイ・ショスタコーヴィチ

Dmitri Shostakovich (1906-1975)

2 つのヴァイオリンとピアノのための 5 つの小品
5 Pieces for Two Violins and Piano

I . Prelude

II . Gavotte

III . Elegy

IV . Waltz

V . Polka

ベンジャミン・ベイルマン (ヴァイオリン)

Benjamin Beilman (Violin)

イム・ジヨン (ヴァイオリン)

Ji Young Lim (Violin)

萩原 麻未 (ピアノ)

Mami Hagiwara (Piano)

(約 10 分)

曲目解説

飯田 有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第5番 へ長調作品24「春」

第1楽章：アレグロ

第2楽章：アダージョ・モルト・エスプレッシーヴォ

第3楽章：スケルツォ：アレグロ・モルト

第4楽章：ロンド：アレグロ・マ・ノン・トロッポ

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）は10曲のヴァイオリン・ソナタを残しているが、「春」の愛称で親しまれているこのソナタは1800～01年に作曲された。この時期のベートーヴェンは交響曲第1番を成功させ、ピアノ・ソナタ第14番「月光」を書くなど創作意欲にあふれ、ウィーンでの名声も高まっていた。一方で耳の持病に悩み、その苦悩を親友のヴァイオリニストに打ち明けていた時期の作品でもある。

「春」の通り名は、ベートーヴェン自身によるものではなく、後世の人間がその朗らかで明るい曲想から呼ぶようになったものである。もともとは、この曲とは対照的な緊張感のあるイ短調の作品23とセットで出版される予定であったが、ヴァイオリン・パート譜の印刷上の手違いから別々の作品番号で世に送り出されることになった。第3楽章にスケルツォを配した4楽章構成となっているが、これはヴァイオリン・ソナタの構成としては初の試みであり、伸びやかな曲調の中にもテーマやモチーフに関連性を持たせるなど、ベートーヴェンの革新性が見出される。

バルトーク：2つのヴァイオリンのための二重奏曲 Sz.98 より

- 第 35 番「ルーシのコロメイカ」
- 第 16 番「ブルレスク」
- 第 22 番「蚊の踊り」
- 第 26 番「からかいの歌」
- 第 42 番「アラビアの踊り」
- 第 43 番「ピッツィカート」
- 第 44 番「トランシルヴァニアの踊り」
- 第 36 番「バグパイプ」

ハンガリーの作曲家ベラ・バルトーク（1881～1945）はハンガリーの民謡収集を熱心に行い、第一次大戦後には民謡研究の成果と前衛的な音楽語法と結びつけて、個性的な作品を生み出した。彼は教育者のスタンスからも熱心にピアノ作品を書いており、全4巻からなるピアノ曲集《子どものために》や、全6巻からなる《ミクロコスモス》を作曲した。

本日演奏される《2つのヴァイオリンのための二重奏曲》は1931年の作品で、ドイツのヴァイオリン教師ドーフラインが、《子どものために》から何曲かをヴァイオリン二重奏の教材用に編曲してほしいと頼んだことがきっかけで生まれた。バルトークはハンガリー、ウクライナ、セルビア、スロバキアなど広い地域の民謡の旋律を用いながら、新たにオリジナル曲を書き下ろした。曲集は全44曲からなり、1曲は1分に満たないものから2分程度と短いですが、若い奏者に演奏テクニックと民族的な音楽性を身につけさせることを狙いとしており、ハーモニーや対位法に工夫を凝らした作品となっている。

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 作品100

- 第1楽章：アレグロ・アマービレ
- 第2楽章：アンダンテ・トランキッロ - ヴィヴァーチェ
- 第3楽章：アレグレット・グラツィオーソ

自作品への評価が厳しかったヨハネス・ブラームス（1833～1897）は、43歳にして初の交響曲を完成させ、47歳で最初のヴァイオリン・ソナタを出版した。ヴァイオリン・ソナタは若き日にも書いていたが、作曲家自身の判断で出版を見合

わせ、失われてしまった。現存するソナタは3作のみである。第2番イ長調のソナタは、1886年、ブラームス53歳の夏に作曲された。すでに4曲の交響曲を書き上げ、作曲家として円熟期を迎えていた時期の所産である。夏の滞在地として訪れたスイスのトゥーン湖畔で書かれたこの曲は、その風光明媚な自然を映し出すかのように、明るく優美な曲想である。初演は、トゥーンでの滞在をブラームスに強く勧めたヨーゼフ・ヴィクトール・ヴィトマンの私邸で行われた。ヴィトマンという人物はオペラ台本作家で（ブラームス自身は一作もオペラを残していないが）、二人は心を許し合う友人同士だった。トゥーンの美しさに想像力を刺激されたブラームスは、同地で第3番のヴァイオリン・ソナタや歌曲の他、ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲などの傑作も残している。

ショスタコーヴィチ：2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品

- I. プレリユード II. ガヴォット III. エレジー
IV. ワルツ V. ポルカ

ソビエト連邦時代の作曲家ドミートリー・ショスタコーヴィチ（1906～1975）は、ソ連当局からの厳しい批判や抑圧に耐えながら、表面的には政府の意向に沿った音楽を書き続け、15曲の交響曲のほか弦楽四重奏曲やオペラや器楽作品を残した。深刻な雰囲気や諧謔的な曲想の作品が目立つ一方で、軽快なポピュラー風の音楽も残している。

「2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品」は、ショスタコーヴィチの軽妙洒脱なセンスを伝える作品であるが、作曲者本人の手によるものではなく、ショスタコーヴィチの親しい友人であり、彼の数々の作品を編曲しているレヴォン・アトフミャン（1901～1973）が映画音楽、劇音楽、バレエ音楽からアレンジした小品集である。I. プレリユード（映画音楽「馬あぶ」op.97より）、II. ガヴォット（劇付随音楽「人間喜劇」op.37より）、III. エレジー（劇付随音楽「人間喜劇」op.37より）、IV. ワルツ（映画音楽「司祭とその下男バルダの物語」op.36より）、V. ポルカ（バレエ音楽「明るい小川」op.39より）の5曲で構成されている。

ベンジャミン・ベイルマン

Benjamin Beilman (Violin)



© Stefan Ruiz

1989 年生まれ。シカゴ音楽院を経て、カーティス音楽院にてアイダ・カヴァフィアンとパメラ・フランクに師事する。その後、クロンベルク・アカデミーにてクリスティアン・テツラフの下、さらなる研鑽を積む。2010 年モントリオール国際音楽コンクール、同年アメリカのヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションでの優勝を機に、数々の著名なオーケストラと共演するなど、ソリストとして国際的なキャリアをスタートさせる。

2014 年には若き才能を支援するロンドンのボルレットイ=ブイトーニ財団のフェローシップに選ばれた。また、ワシントン・ポスト、ニューヨーク・タイムズ、イギリスのザ・ストラッド誌でも新進気鋭の若手ヴァイオリニストとしても取り上げられている。これまでに、ネヴィル・マリナーやヤニック・ネゼ=セガンなど著名な指揮者をはじめ、フィラデルフィア管弦楽団、フランクフルト放送交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団等と共演している。ルーブル美術館オーディトリウムやウィグモアホールでリサイタルを行っている他、マールボロ音楽祭、ミュージック・アット・メンロー（カリフォルニア）、ヴェルピエ音楽祭等に出演している。2016 年 3 月には、ワーナークラシックスよりファーストアルバム「スペクトラム」を発売した。

使用楽器は日本音楽財団より貸与されたストラディヴァリウス 1709 年製ヴァイオリン「エングルマン」。

イム・ジヨン

Ji Young Lim (Violin)



1995年ソウル生まれ。7歳でヴァイオリンを始め、韓国芸術総合学校（国立芸術大学）でキム・ナムユン教授に師事した後、ドイツのクロンベルク・アカデミーで研鑽を積む。2015年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール、及び2013年ユーロアジア国際コンクールで優勝した他、アメリカのインディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクール、カナダのモントリオール国際音楽コンクール、ドイツ・リヒテンベルクのアンリ・マルトール国際ヴァイオリン・コンクール等、数々の国際コンクールに入賞。

これまでに日本、アメリカ、カナダの他、ドイツ、スイス等のヨーロッパ諸国でコンサートツアーを行っている。また、著名な国際音楽祭にもたびたび招待され、マキシム・ヴェンゲーロフ、ジョエル・スミルノフ、原田幸一郎等、著名な指揮者やヴァイオリニストとの共演を重ねている。

2017年にはモーツァルトとベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタを収録したファーストアルバムをメジャーレーベルのワーナークラシックスからリリースしている。

使用楽器は日本音楽財団より貸与されたストラディヴァリウス1717年製ヴァイオリン「サセルノ」。今回の演奏会では、特別に財団保有ストラディヴァリウス1700年製ヴァイオリン「ドラゴネッティ」も使用する。

萩原 麻未

Mami Hagiwara (Piano)



©Marco Borggreve

2010年第65回ジュネーヴ国際コンクール〈ピアノ部門〉において、日本人として初めて優勝。

広島県出身。第27回パルマドーロ国際コンクールにて史上最年少の13歳で第1位。広島音楽高等学校を卒業後、文化庁海外新進芸術家派遣員としてフランスに留学。パリ国立高等音楽院及び同音楽院修士課程、パリ地方音楽院室内楽科、モーツアルテウム音楽院を卒業。

日本、フランスを中心に、スイス、ドイツ、イタリア、ベトナムなどでソリスト、室内楽奏者として演奏活動を行っている。これまでに、NHK響、大阪フィル、スイス・ロマンダ管、南西ドイツ放送響など国内外における主要オーケストラとも多数共演を重ねているほか、ジョナサン・ノットら数々の著名な指揮者とも共演。また、フランスのラ・ロック・ダンテロン、ラ・フォル・ジュルネ（ナント / 日本）等の様々な音楽祭に招かれている。

メディアでは「題名のない音楽会」「らららクラシック」「クラシック倶楽部」「名曲アルバム」等のテレビ、ラジオ番組にも多数出演している。

ストラディヴァリウス 1700 年製ヴァイオリン
「ドラゴネッティ」
Stradivarius 1700 Violin “Dragonetti”



このヴァイオリンはネックの部分までも製作当時のものが使用されているとても貴重な楽器である。著名なイタリアのコントラバス奏者ドメニコ・ドラゴネッティ（1763-1846）によって大切に所有されていたことからこの名前と呼ばれている。

1958年に英国のバースで行われた展示会に英国の楽器商ヒル商会を代表する楽器として当楽器が展示され、1960年ヴァイオリン奏者のアルフレード・カンポリ（1906-1991）の手に渡ったのち西ドイツ銀行によって所有され、著名なヴァイオリン奏者、フランク・ペーター・ツィンマーマンに貸与されていた。2002年6月、日本音楽財団は楽器商を通じて西ドイツ銀行より購入した。

ストラディヴァリウス 1709 年製ヴァイオリン
「エングルマン」
Stradivarius 1709 Violin “Engleman”



米国のアマチュア・ヴァイオリン奏者で収集家のエフレイム・エングルマン博士（1911-2015）が所有していたため、この名前と呼ばれている。

1951年に英国の楽器商ヒル商会からフランスの愛好家ピエール・ラコム博士に売却された。前の所有者の米国海軍士官ヤング中佐が第二次世界大戦で戦死するまで約150年間ヤング家が所有していた。その後、この楽器は、ニューヨークの楽器商ジャック・フランセを通じて、エングルマン博士に売却された。1996年5月、日本音楽財団が楽器商を通じて、エングルマン博士より購入した。

ストラディヴァリウス 1717 年製ヴァイオリン
「サセルノ」
Stradivarius 1717 Violin “Sasserno”



フランスのサセルノ伯爵が所有していたことからこの名前で呼ばれている。サセルノ伯爵は 1845 年にパリの楽器商ガン & ベルナーデルよりこの楽器を購入し、1884 年にスコットランドの楽器商デヴィッド・ローリーの手に渡った。1887 年にはアマチュア奏者のデイヴィッド・ジョンソンの手に渡り、1894 年にはヴァイオリン奏者のオットー・ペイニガーに売却。同年ヒル商会を通じてノーサンプトン市で醸造所を所有していたピカリング・フィップスの手に渡った。1906 年に再度ヒル商会を通じて英国のヘンリー・サマーズに売却され、以後 93 年間にわたり同家によって保管されてきた。1999 年 5 月、日本音楽財団はサマーズの孫娘にあたる所有者から楽器商を通じて購入した。

日本音楽財団について

日本音楽財団は、1974年3月に日本国内の音楽文化の振興と普及に寄与することを目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献のため、弦楽器名器の貸与事業を行っています。2012年4月には財団法人から公益財団法人となり、楽器貸与事業を通じた音楽文化の振興・普及を目的に活動しています。

現在は、世界最高クラスの弦楽器を21挺（ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、ガルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン2挺）保有し、若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与しています。これら世界の文化遺産ともいわれる名器の保守・保全に関しては、次世代に継承するための管理者としての大きな責務を負っていることを自覚し、最大の努力を払っています。また、演奏会を国内外で開催し、世界中の方々に名器の音色に触れる機会を提供しています。特に10挺以上のストラディヴァリウスとその演奏家が一堂に会する「ストラディヴァリウス・コンサート」は、当財団の事業を代表する演奏会となっています。

これら日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

〈次回公演予告〉

ストラディヴァリウス・コンサート2020

ストラディヴァリウスヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ10挺以上の響宴

2020年9月6日(日) 福岡・福岡シンフォニーホール

2020年9月8日(火) 大阪・いずみホール

2020年9月10日(木) 東京・サントリーホール 大ホール

詳細は日本音楽財団HPにて公開予定 www.nmf.or.jp

